

本日は9月14日という事で、敬老者の皆さまに祈願をさせていただきました。

今年、妙智會の敬老者の方は、5109名いらっしゃいました。

その中で、100歳以上の方が46名という事は、本当にありがたい事でございます。

来年は、是非ご本部にお越し頂いて、敬老者の皆さまに直接お祝いを申し上げたいと願っております。

本日は私の経験を踏まえ、お話させていただきます。

その一つは、お経のあげ方についてです。

私がご供養会やいろんな場面で導師を務めさせて頂いているなかで、今の私のお経のあげ方というのは、沢山の方たちの良いところを頂戴して、させて頂いております。

私は法嗣という立場ではございますが、良いものは素直に頂いて、学ばなければならないと思います。

おりんの叩き方、一言一句はつきりとあげる事の大切さ、お経巻の言葉を区切る部分、姿勢などを、沢山の方から教わり学ばせて頂きました。

そのお蔭さまで、少しずつ変えていって、今に至っております。

私の立場からお話をさせて頂かなければならない事は、支部長さん役員さんになりますと、信者さんから学ぶ事が恥ずかしいと思ってしまう、これはやはり良くないという事です。

私がこの様に学ばせて頂いているという事を、しっかりと申し上げた方が良いと思ひまして、お話させて頂きました。

会主さまが「恵司のお経のここが素晴らしい。明日から恵司のお経のあげ方をしようね」と仰って下さった事があります。

そしてご自分でその都度考えていらっしゃいました。

大導師さまもそうでした。

「学ぶ事は大切」という事を、その時私は頂戴致しました。

支部長さん役員さん、そして上の方になるほど、信者さん、部下の方、下の方の声に耳を傾けなければならないのです。

観音さまの様な、すべての衆生に対して耳を傾けられる心にならなければなりません。

妙智會は、信者さんのいろんな声をしっかりと聴く、そういう教えであるという事を、会主さま大導師さまから頂いております。

支部長さん役員さんは、会主さま大導師さまを見習って、すべての人の悲しみ、苦しみを聴ける様な器になって頂く事をお願いいたします。

そして、すべての信者さんにお伝え致します。

自分の辛い事、苦しい事を支部長さん役員さんにお話しして下さい。受け止めて下さるはずです。

この事を最後にお話させて頂いて、本日の私の指導と致します。
ありがとうございました。